

南九州大学人間発達学部子ども教育学科子どもの学び研究所の取り組みの概要

子どもの学び研究所担当 酒 井 喜八郎
宮 内 孝
山 田 裕 司
春 日 由 美
早 川 純 子
趙 雪 梅

I. はじめに

子どもの学び研究所は、平成21年度に先行、人間発達学部子ども教育学科が開催された平成22年度から活動を継続しており、今年度で8年目になる。平成28年度は、保育所、幼稚園、小学校の10校の研究員の先生方と大学のスタッフとともに活動を行った。平成28年度の主な活動内容をまとめる。

II. 活動の実際

1 28年度研究拠点校並びに研究員と1年間の研究活動

(1) 研究拠点校

1 学校法人天竜学園天竜幼稚園	6 都城市立東小学校
2 学校法人天竜学園天竜第二幼稚園	7 都城市立上長飯小学校
3 学校法人天竜学園天竜第三幼稚園	8 都城市立祝吉小学校
4 学校法人天竜学園天竜祝吉幼稚園長	9 三股町立三股小学校
5 都城市立南小学校	10 三股町立三股西小学校

(2) 研究員

1 学校法人天竜学園天竜幼稚園 園 長 佐々木 慈 舟	1 都城市立南小学校 教務主任 内 藤 博 文
2 学校法人天竜学園天竜祝吉幼稚園 園 長 上 原 睦 子	2 都城市立東小学校 主幹教諭 瀬之口 忠 二
3 学校法人天竜学園天竜幼稚園 主任教諭 田 實 美 幸	3 都城市立上長飯小学校 主幹教諭 鹿 嶋 陽 一
4 学校法人天竜学園天竜第二幼稚園 主任教諭 北 園 由美子	4 都城市立祝吉小学校 教 諭 大久保 修
5 学校法人天竜学園天竜第三幼稚園 主任教諭 山 城 隆 子	5 三股町立三股小学校 教務主任 溝 口 常 彦
6 学校法人天竜学園天竜祝吉幼稚園 主任教諭 河 野 祐 子	6 三股町立三股西小学校 主幹教諭 大 浦 英二郎

(3) 研究員の活動

子どもの学び研究所の研究員の活動は1年間、表1に示す日程で実施した。

表1 子どもの学び研究所の1年間の活動

	開催月日	主な研究活動(テーマ)
第1回	5/30(月)	研究員委嘱状交付式・今年度の計画・研究員及び大学側関係 教員紹介 研究員会議①
第2回	6/28(火)	研究員会議②・第2学年学生とのグループ別対談
第3回	7/26(火)	研究員会議③・第3学年学生とのグループ別対談
第4回	10/25(火)	秋の学びシリーズ①
第5回	11/29(火)	秋の学びシリーズ②
第6回	12/13(火)	秋の学びシリーズ③
第7回	1/16(月)	研究員会議④第1学年学生とのグループ対談
第8回	2/14(火)	研究員会議⑤卒論代表発表及び今年度の反省

5月30日(月)に寺原学長から委嘱状を渡された保育所、幼稚園、小学校の10校、12名の研究員の先生方とともに1年間の活動を行った。第1回研究会は年間計画の説明を行った。第2回の6月は観察実習に向けて2年生、第3回の7月は11月の教育実習に向けて3年生、第7回の1月は、次年度の大学2年生から本格的に実習が始まる展望を得るために、という位置づけで、子ども教育学科の学生たちが研究員に、学校の様子や先生の苦労についてインタビューし、話を聴き教育実習に行くまでの心構えをつくることを目標に実施した。

(4) 新企画:「秋の学びシリーズ」

さらに、子どもの学び研究所では、今年度は、新たな試みとして、「秋の学びシリーズ」というネーミングで研究員の先生方だけでなく、広く保育園・幼稚園・認定こども園・小学校の先生、教育委員会、大学生と共に学ぶ講座を開講した。表2は、「秋の学びシリーズ」の詳細を示す。

講座は10月から12月に月1回開催し、教育の喫緊の課題である次期学習指導要領・幼稚園教育要領についてみんなでグループ討論をしながら学び合いをした。

表2 子どもの学び研究所の「秋の学びシリーズ」の開催日と講師(討論の話題提供)

	開催月日	秋の学びシリーズ講師	話題提供とグループ討論のテーマ
第1回	10/25(火)	山田裕司准教授	「次期学習指導要領について考える」
第2回	11/29(火)	藤本朋美講師	「保・幼・小学校連携を考える」
第3回	12/13(火)	酒井喜八郎講師	「アクティブラーニングを考える」

第1回(10月25日)は「子どもの資質・能力」をテーマに、幼児期から小学校において育成すべき資質・能力について山田裕司准教授が解説し、その後、先生方と同学科の学生がグループに分かれて意見交換を行った。話題提供の内容は、①幼児期において育みたい資質・能力をどう明確化するか、②幼児期における指導方法をどのように充実するか、③幼児教育と小学校教育との接続を一層強化していくための支援方策をどのように進めるべきか、等について解説があった。その後のグループ討論では、小

学校の先生から保育・幼児教育の実践内容や保育・教育方法を、保育・幼児教育の先生から小学校の実践内容や教育方法を学び、意見交換をするいい機会になったという感想があった。

第2回は、「保・幼・小学校連携を考える」というテーマで、藤本朋美講師から、最近叫ばれている保・幼・小の学びの接続についての話題提供があった。当日の話題提供のサブタイトルは「幼児期の教育と児童期の教育との関係をどう捉えるかー連携から接続へー」であった。資料として、①「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（平成22年）と②「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成28年）の2点が紹介され、①により「今どのような保幼小連携がなされているのか」現状を把握し、②により「今後の連携においてどのような学びの接続が求められるのか」について議論をする視点を得た。グループ討論は、幼児教育と小学校教育の関係について、それぞれの教員が自身の教育実践を、学びの接続の「点」として位置づけ、その点同士がどのようにつながり、関係性を構築していくのかに主眼がおかれた。

第3回は、「アクティブラーニングを考える」というテーマで、酒井喜八郎講師から、次期学習指導要領の強調点であるアクティブラーニングについて話題提供があった。アクティブラーニングの歴史や現在の研究動向、アクティブラーニングの授業が、大学から保・幼・小・中学校、高等学校、の各校種で求められていること、その理由として、グローバル化、情報化が進み知識基盤社会となり、未知の問題解決に取り組む主体的な学力が求められていること、大学入試の評価も変わっていくことなどの解説や、協同学習、協調学習の実践例の紹介があった。その後のグループ討論では、自分が取り組みたいアクティブラーニングについて、学生も多数参加し、活発な討論が行われ実りのあるものとなった。

(5) 今年度の研究員の活動の成果と課題

今年度の研究員の活動の成果は、これまで課題であった「保・幼・小の連携」について、「秋の学びシリーズ」の3回の取り組みを通して保・幼・小の研究員や学生との研究交流ができたことである。来年度も、子ども教育学科の良さである多くの研究分野のスタッフとの研究交流を行い、今後さらに、地域に開かれた学びの場として有意義な時間にしていきたい。

研究会の後、参加された先生方に「秋の学びシリーズ全3回の感想」を言ってもらったところ、「学びの機会があって良かった。」「最近よく叫ばれている次期学習指導要領などの教育課題だったので勉強になった。」「若い学生たちと熱心な話し合いができて良かった。」など好評であった。来年度も、「秋の学びシリーズ」を継続し、より良いものにさらに発展させていきたいと考える。

2 拠点校との連携活動（観察実習と教育実習）

前述のように、拠点校とは研究員を通して、あるいは学校への具体的な活動を通して連携を深めている。さらに、拠点校を含む複数の園や学校で、これまで観察実習や教育実習を実施してきたが、今年度は、小学校の実習生が63名と昨年度より16名増加したため、小学校本実習においては、受け入れ校は10校増加したが、どの小学校も快く実習生を受け入れて熱心にご指導頂いた。

① 観察実習

幼稚園観察実習校 一覧

1	アソカ幼稚園	1名	6	第一幼稚園	2名	11	天竜祝吉幼稚園	1名
2	一万城幼稚園	3名	7	妻ヶ丘幼稚園	2名	12	にし幼稚園	2名
3	さくら幼稚園	2名	8	天竜幼稚園	3名	13	ふたば幼稚園	3名
4	ししのこ幼稚園	2名	9	天竜第二幼稚園	1名	14	みまた幼稚園	2名
5	清涼幼稚園	1名	10	天竜第三幼稚園	2名			

小学校観察実習

1	都城市立南小学校	5名	4	都城市立祝吉小学校	5名	7	三股町立三股西小学校	6名
2	都城市立東小学校	5名	5	都城市立明道小学校	3名			
3	都城市立上長飯小学校	5名	6	三股町立三股小学校	5名			

②教育実習

幼稚園教育実習

1	アソカ幼稚園	3名	7	妻ヶ丘幼稚園	2名	13	ふたば幼稚園	3名
2	一万城幼稚園	2名	8	天竜幼稚園	3名	14	みまた幼稚園	3名
3	さくら幼稚園	3名	9	天竜第二幼稚園	3名	15	都城聖ドミニコ学園幼稚園	3名
4	ししのご幼稚園	2名	10	天竜第三幼稚園	2名	16	みまた幼稚園	3名
5	清涼幼稚園	2名	11	天竜祝吉幼稚園	3名	17	ひろせ幼稚園	2名
6	第一幼稚園	4名	12	にし幼稚園	2名	18	野の花幼稚園	1名

小学校教育実習校一覧

1	都城市立明道小学校	3名	11	都城市立乙房小学校	1名	21	都城市立今町小学校	2名
2	都城市立南小学校	3名	12	都城市立梅北小学校	2名	22	都城市立庄内小学校	1名
3	都城市立大王小学校	3名	13	都城市立安久小学校	2名	23	都城市立明和小学校	3名
4	都城市立東小学校	3名	14	都城市立川東小学校	2名	24	都城市立山之口小学校	1名
5	都城市立上長飯小学校	3名	15	都城市立富吉小学校	1名	25	都城市立高崎小学校	3名
6	都城市立五十市小学校	3名	16	都城市立高城小学校	2名	26	三股町立梶山小学校	1名
7	都城市立西小学校	3名	17	都城市立中霧島小学校	1名	27	三股町立宮村小学校	1名
8	都城市立沖水小学校	3名	18	三股町立三股小学校	3名	28	曾於市立財部小学校	2名
9	都城市立祝吉小学校	3名	19	三股町立三股西小学校	3名	29	曾於市立末吉小学校	2名
10	都城市立志和池小学校	2名	20	三股町立勝岡小学校	2名			

3 「平成28年度 教師のカウンセリング的資質向上研修」の実施

(1) はじめに

この研修会は子どもの学び研究所主催の教員を対象とした教育相談に関わる研修であり、研修企画者・講師は本学教員の春日由美准教授である。これまで平成23年度と平成26年度に実施しており、今回で3回目の実施となる。平成23年度は都城市教育委員会、三股町教育委員会の共催を得て、平成26年度は都城市教育委員会、三股町教育委員会、曾於市教育委員会の共催を得て、どちらも南九州大学都城キャンパスで実施している。3回目となる今年度は、宮崎県教育研修センターとの共催で、宮崎県教育研修センターにて実施している。実施前のチラシの配布(県内すべての教員に1枚ずつ配布していただいた)、および毎回の研修実施において、県教育センター教育支援課のご協力をいただいている。特に毎回の資

料印刷、会場設営、受付のすべての作業において、県教育センター教育支援課の阿部泰宏指導主事にご尽力いただいている。以下、本年度の研修について報告する。

(2) 研修内容

- ①対象：現職の小・中・高等学校・特別支援学校や教育委員会に勤務し、守秘義務を守ることができる方（講師も受講可）。今年度は64名が受講。
- ②日程：月1回土曜日午前10時30分～12時。計7回（平成28年6月25日、7月30日、9月17日、10月22日、11月19日、平成29年1月7日、2月4日）。
- ③研修内容：表1に示す。毎回講義だけでなく、自己や他者とのワークを取り入れた。また毎回様々な方との交流を促すため、席はくじ引きとした。
- ④その他の研修の構造：研修申し込みは県研修センター Web ページからできるようにしていた。2週間の申し込み期間より早く予定定員数50名を超えたため、申込期間を途中で終了し、今回は64名を受講可能とした。研修は無料である。7回すべて受講された方には、修了証をお渡しした（修了証授与者は30名）。

表1. 各回の研修内容

回	内容
第1回	自己理解の大切さ、関わるための教師の自己理解、自己開示と自己受容
第2回	教師の自己受容・他者受容、非言語的コミュニケーション、共感的理解・聴き方
第3回	2つのところ、ところの整理法、本当の共感的理解
第4回	距離をとる大切さ、叱るためには、カウンセラーの面談・電話のコツ
第5回	誰のための関わり？、待つことの大切さ、事例をもとにした共感的理解
第6回	自分のところの安定、カウンセリング的視点からの多面的なケース理解
第7回	3つの視点からのケース理解、ジェノグラム・エコマップを用いたケース理解

(2) 今回の研修のまとめ

今回の研修を実施し、以下のことが考えられた。

- ①今回の研修は、事前の事務的作業・毎回の研修実施において、県研修センターの多大なご協力をいただき実施することができた。受講者も県内の様々な地域から参加されていた。今後も県と本学部が協働で様々な活動を行うことで、宮崎県の教職員の資質の向上に寄与することができるのではないかと考えられる。
- ②参加申し込みも募集期限を待たずに締め切らなければならないほどであり、また研修参加者は1時間以上かけて来られる方もおられた。現在教員は児童生徒の抱える多様な問題に適切に対処する力が求められており、今回のような研修へのニーズはたいへん高いと考えられる。
- ③講師も参加できるように、また遠方の方も参加できるように、土曜日の開催とした。一方で土曜日であるからこそ、受講者が部活の試合や学校行事等で参加できない場合もあった。また研修センターの方には通常の勤務日でない日に出勤いただくこととなった。日程については今後も検討が必要であると考えられる。

4 平成28年度 幼稚園免許状取得特例講座報告

平成28年7月から12月にかけて、本学では保育士資格所有者を対象とした幼稚園教諭免許状取得のための特例科目を開講した。幼保連携型認定子ども園の職員である保育教諭に必要な幼稚園免許と保育士資格の併有を促す特例制度を受けて開催したものだ。参加者は計12名で、各自必要な科目を履修した。

教科に関する科目		開講科目名	単位	講義日程 (全て日曜日)
教職の意義等	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、サービス及び身分保障等を含む)	「教職概論」	2	7月10日、17日、24日、31日、8月7日、21日、28日、9月11日(「教育制度論」のみ)、12月18日(「教職概論」のみ)
教育の基礎理論	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(※憲法第26条「教育を受ける権利」を取り扱う)	「教育制度論」	2	
教育課程及び指導法	教育課程の意義及び編成の方法	「幼児教育課程論」	1	9月11日(保育内容と方法のみ)、18日、25日、11月6日*、13日*、20日、27日**、12月4日**、11日 *は「幼児理解」と「保育内容と方法」、**は「幼児教育課程論」と「保育内容と方法」を実施
	・保育内容の指導法 ・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用含む)	「保育内容と方法」	2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等	幼児理解の理論及び方法	「幼児理解」	1	

5 主催事業 チャレンジ算数教室

(1) はじめに

チャレンジ算数教室は、算数的活動を通して子どもたちに、算数の面白さや楽しさを感じてもらう教室である。今年度は、第2回目の開催であり、前期と後期の2回にわたって開催した。主な活動についてまとめる。

(2) 活動の具体

① 活動の日時・参加者

- 日時 前期 5月下旬～6月中旬、毎週土曜日の13:30～15:00までの計4回
後期 1月下旬～2月中旬、毎週土曜日の10:00～11:00までの計2回
- 参加者 前期 小学1年生～小学6年生児童とその保護者、約200名
後期 年長児とその保護者、約100名
保護者同伴での参加を依頼

② 活動の目的

算数的活動を通して普段学校や幼稚園では学ぶことのできない算数の面白さや楽しさに気付くとともに、園児・児童の算数への興味関心を高めることを目的とする。

自分が知らないことに対して、自ら挑戦したり、新しい角度から見る発見を体験したりすることも目的とする。また、保護者が園児・児童と共に考える交流の場になることも含める。

支援者として加わる学生にとっても、前期4回、後期2回の準備・活動を通して、教材研究を深めたり子どもや保護者と交流したりすることで、指導法の工夫に努めるなどといった目的もある。

③ 活動内容

- 前期 第1回 計算マスターになろう！
第2回 花紋を作るよ～ come on ～
第3回 コマを回そう！
第4回 白熱！トミカレース！

- 後期 第1回 さかなつりをしよう！
第2回 パズルであそぼう！

以上の題目で活動を進めた。内容としては前期では、四則演算の性質を用いた計算や正多角形や円、速さの性質を解き明かすなど、小学校の教育課程に含まれていないことも交えて活動を行った。後期は、小学校に就学する前の園児に数・図形についての認識を持たせるための活動を行った。そのため、子どもたちが苦手意識を持たずに取り組めるように、ICT機器を用いたり、児童の興味を引くようなクイズ形式の問題を準備したりするなど、教材の開発・工夫に努めた。

Ⅲ おわりに

平成28年度に実施した「子どもの学び研究所」に関する様々な取り組みについて、それぞれの担当の先生方に原稿をお寄せ頂いたものをもとにまとめ、1年間の活動を紹介した。

「子どもの学び研究所」の活動は、南九州大学人間発達学部子ども教育学科と地域の保・幼・小の先生や教育委員会との研究交流において大変重要な機関であり大学と地域を結ぶ実践研究を推進していく上で意義がある。

今後、9年目、さらに節目となる10年目に向けて、地域に開かれた南九州大学子どもの学び研究所として、さらに充実した夢のある活動内容にしていきたいと考えている。